

令和元年度鶴見大学仏教文化研究所公開シンポジウム・開会の辞

著者	大山 喬史
雑誌名	鶴見大学仏教文化研究所紀要
号	25
ページ	3-3
発行年	2020-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1646/00000855/



開会の辞

鶴見大学学長・仏教文化研究所所長 大山 喬史

この度は、「石川素童禅師のご生涯とご功績——百回御遠忌にちなんで」ということで、大勢の方にご出席いただきまして、中には遠方からご参加をいただき、誠にありがとうございます。殊に、川口先生、菅原先生、尾崎先生には、お忙しい中ご講演を引き受けていただきまして誠にありがとうございます。また、山口老師にはさらなるご高配を賜り、心より感謝申し上げます。この分野に関して私は浅学非才の身であり、誠に僭越かと思いますが、石川素童禅師におかれましては、鶴見へのご移転は相当なご苦勞を乗り越えての大事業だったように伺っております。ここに百回御遠忌にちなんで、改めてそのご功績を振り返らせていただこうと思います。

本研究所が創立されましたのは、一九九五年でございます。すでに四半世紀を過ぎております。今後の研究所の発展に務めるべく、私もこれより精進させていただきますが、引き続き皆様のご指導、ご鞭撻の程をお願い申し上げます。最後になりましたが、ご参加の皆様にとって有意義なシンポジウムになることを切に願って、私の開会の言葉とさせていただきます。本日は、お集まりの皆様、誠にありがとうございます。心より御礼を申し上げます。